



栗田工業株式会社

2021年3月期 第2四半期 決算説明会

(証券コード：6370)

2020年11月6日

1	2021年3月期 上期実績	p 1 -11
2	2021年3月期 通期見通し	p12-20
3	重点施策の進捗	p21-27

1 | 2021年3月期 上期実績

業績概況

(単位：億円)			2019/9期	2020/9期	前年同期比	期初計画 (5/18発表)
受	注	高	1,378	1,275	△ 7.4%	1,230
売	上	高	1,318	1,310	△ 0.6%	1,230
事	業	利 益	138	140	+ 2.0%	89
そ	の	他 の 収 支	48	24	—	△ 4
営	業	利 益	186	165	△ 11.4%	85
税	引 前	四 半 期 利 益	188	158	△ 15.8%	86
親	会 社 の 所 有 者 に 帰 属 す る	四 半 期 利 益	135	108	△ 20.2%	60
基本的1株当たり四半期利益（円）			120.26	95.91	△ 20.2%	53.43
為 替 レ ー ト	USD（円）		108.6	106.9		109.0
	EUR（円）		121.4	121.3		121.0
	CNY（円）		15.7	15.3		15.3

- 受注高・売上高は新型コロナウイルスの影響により前年同期を下回るも、期初計画は上回った。
- 事業利益は、ペンタゴン・テクノロジーズ社の新規連結ならびに原価率改善と経費削減努力により増益を確保。
- 超純水供給事業における一部顧客との契約解除に伴う清算益21億円をその他収益に計上（前年同期は固定資産売却益48億円を計上）。

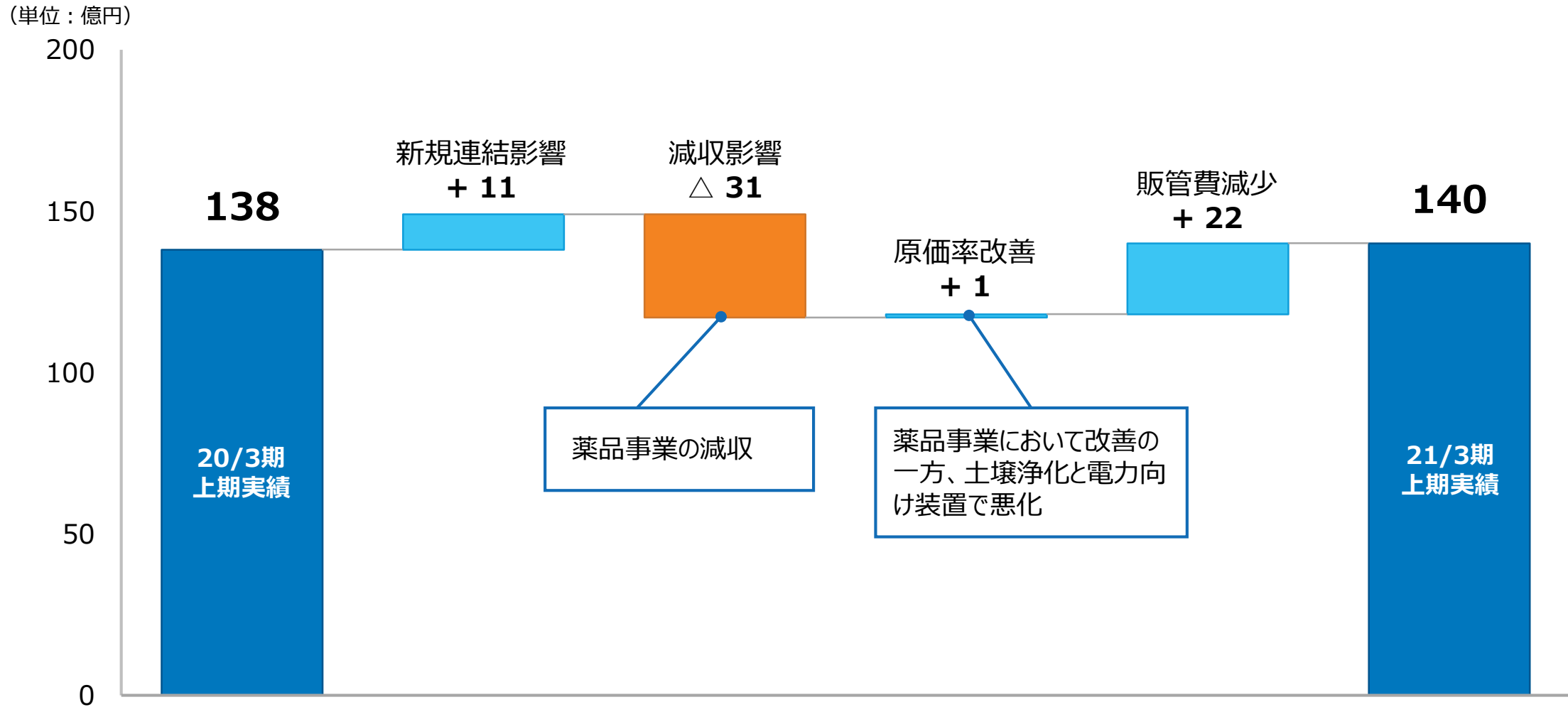
- 水処理薬品事業へのマイナス影響は国内よりも海外の方が大きい。
- 電子産業向けの事業におけるマイナス影響は限定的。
- 新規提案活動の一部には制約があり遅延も生じた。
- サプライチェーンへの悪影響は軽微。
- 業績への影響額：受注高▲95億円、売上高▲57億円、事業利益▲14億円

セグメント別の実績

(単位：億円)		2019/9期	2020/9期	前年同期比	期初計画 (5/18発表)
全社	受注高	1,378	1,275	△ 102	1,230
	売上高	1,318	1,310	△ 7	1,230
	事業利益	138	140	+ 3	89
	事業利益率	10.4%	10.7%		7.2%
	営業利益	186	165	△ 21	85
水処理薬品 事業	受注高	586	524	△ 62	518
	売上高	585	515	△ 70	515
	事業利益	66	64	△ 2	40
	事業利益率	11.3%	12.5%		7.8%
	営業利益	65	64	△ 2	37
水処理装置 事業	受注高	792	752	△ 40	712
	売上高	733	795	+ 62	715
	事業利益	73	76	+ 4	49
	事業利益率	9.9%	9.6%		6.9%
	営業利益	121	101	△ 20	48

- 受注高の減少のうち新型コロナウイルスの影響は、水処理薬品▲40億円、水処理装置▲55億円と試算。
- 売上高の減少のうち新型コロナウイルスの影響は、水処理薬品▲40億円、水処理装置▲17億円と試算。
- 原価率が、水処理薬品事業で改善、水処理装置事業で悪化。
- 新規連結を除くと両セグメントともに販管費が減少。
- 水処理装置事業において、その他収益が減少。

事業利益の増減要因（前年同期比）



(単位：億円)	2019/9期	2020/9期	前年同期比	期初計画（5/18発表）
受注高	586	524	△ 62	518
国内	240	221	△ 20	197
海外	345	303	△ 42	321
売上高	585	515	△ 70	515
国内	238	212	△ 27	195
海外	346	304	△ 43	320
事業利益	66	64	△ 2	40
事業利益率	11.3%	12.5%		7.8%
営業利益	65	64	△ 2	37

- 国内の受注高・売上高は全顧客業種で減少。
- アビスタ社の2ヵ月分の新規連結を除く海外売上高は14%の減少。
- 減収のマイナス影響を原価率の改善と経費削減努力によりほぼ相殺し事業利益は若干の減少。

海外地域別売上高

(単位：億円)	2019/9期	2020/9期	前年同期比	期初計画（5/18発表）
アジア	135	109	△ 26	112
北米	101	95	△ 6	102
EMEA	97	90	△ 7	94
その他	13	10	△ 3	12
合計	346	304	△ 43	320

増減要因（億円）

オーガニック増減	△ 39
為替影響	△ 9
新規連結	+ 5

水処理装置事業（国内電子産業向け）

（単位：億円）	2019/9期	2020/9期	前年同期比	期初計画 （5/18発表）
受注高	272	275	+ 3	255
装置	14	16	+ 2	23
メンテナンス	96	74	△ 22	57
超純水供給事業	127	141	+ 14	139
精密洗浄	35	43	+ 9	36
売上高	285	291	+ 6	250
装置	45	24	△ 20	19
メンテナンス	78	82	+ 4	56
超純水供給事業	127	141	+ 14	139
精密洗浄	35	43	+ 8	36

- 装置の売上高は大型案件の一巡により減少。
- メンテナンスは、新型コロナウイルスの影響により大型案件が延期となり受注高が減少するも売上高は工事進捗により増収。
- 超純水供給事業は前期に水供給を開始した案件により増収。
- 精密洗浄は堅調な増収。

水処理装置事業（国内一般産業向け）

（単位：億円）	2019/9期	2020/9期	前年同期比	期初計画 （5/18発表）
受注高	322	262	△ 60	242
エネルギー・インフラ	256	229	△ 26	204
土壌浄化	52	19	△ 33	28
その他	15	13	△ 1	11
売上高	267	272	+ 5	261
エネルギー・インフラ	215	230	+ 15	216
土壌浄化	37	29	△ 8	34
その他	15	13	△ 2	11

- エネルギー・インフラの受注高では、装置が一般産業向け、電力向けともに減少、一般産業向けメンテナンスも実施延期が発生し減少。
- エネルギー・インフラの売上高は、受注残からの計上により装置は増加、一般産業向けメンテナンスも小幅な減少にとどまる。
- 土壌浄化は、大型案件の一巡により、受注高・売上高ともに減少。
- 官公需向けメンテナンスは採算が改善。

水処理装置事業（海外）

（単位：億円）	2019/9期	2020/9期	前年同期比	期初計画（5/18発表）
受注高	197	214	+ 17	215
装置	139	90	△ 48	110
メンテナンス	44	54	+ 11	42
超純水供給事業	15	15	△ 0	14
精密洗浄	—	55	+ 55	49
売上高	181	232	+ 52	204
装置	121	114	△ 7	109
メンテナンス	45	49	+ 4	32
超純水供給事業	15	15	△ 0	14
精密洗浄	—	55	+ 55	49

- 中国では営業や工事に遅れも発生し、受注高・売上高ともに減少。
- 韓国向けは受注高・売上高ともに計画線。
- 北米ではペンタゴン社を新規連結。
- メンテナンスは堅調に推移。

地域別売上高

（単位：億円）	2019/9期	2020/9期	前年同期比	期初計画（5/18発表）
アジア	141	132	△ 8	116
北米他	40	100	+ 60	88
合計	181	232	+ 52	204

増減要因（億円）

オーガニック増減	+ 0
為替影響	△ 4
新規連結	+ 55

サービス事業売上高内訳

(単位：億円)	2019/9期	2020/9期	前年同期比	期初計画 (5/18発表)
水処理薬品事業	585	515	△ 70	515
水処理装置事業	526	603	+ 77	534
超純水供給事業	142	156	+ 14	153
国内精密洗浄	35	43	+ 8	36
海外精密洗浄	—	55	+ 55	49
土壌浄化	37	29	△ 8	34
国内メンテナンス	255	260	+ 5	219
海外メンテナンス	45	49	+ 4	32
その他	11	11	△ 1	11
合計	1,110	1,118	+ 8	1,049

- 超純水供給事業が増加。
- 国内精密洗浄が堅調に推移。
- 海外精密洗浄がペンタゴン社の新規連結により新たに加わる。

設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2019/9期	2020/9期	前年同期比
設備投資額（有形）	151	91	△ 60
水処理薬品事業	29	19	△ 9
水処理装置事業	122	72	△ 51
超純水供給事業	94	35	△ 58
上記以外	28	36	+ 8
減価償却費（有形）	71	88	+ 17
水処理薬品事業	16	20	+ 4
水処理装置事業	55	68	+ 13
研究開発費	27	26	△ 1
水処理薬品事業	10	9	△ 1
水処理装置事業	17	17	△ 0

- 設備投資は期初計画に沿った進捗。
- 超純水供給事業以外の設備投資には、サービス契約向け資産、生産拠点、新開発センター向けの投資を含む。
- 減価償却費は期初計画に沿った進捗。

財政状態

(単位：億円)	2020年3月末	2020年9月末	増減
現金及び現金同等物	502	530	+ 28
その他流動資産	1,126	1,054	△ 73
流動資産合計	1,628	1,584	△ 44
有形固定資産	1,064	1,053	△ 11
のれん	470	560	+ 90
その他非流動資産	715	695	△ 20
非流動資産合計	2,249	2,308	+ 59
資産合計	3,877	3,892	+ 15
流動負債	944	850	△ 94
非流動負債	492	592	+ 100
負債合計	1,436	1,442	+ 5
親会社の所有者に帰属する持分	2,424	2,421	△ 3
非支配持分	17	30	+ 13
資本合計	2,441	2,451	+ 10
負債及び資本合計	3,877	3,892	+ 15

- 売掛金の回収により営業債権が減少。
- ペンタゴン社の連結子会社化により、のれんが増加し、持分法で会計処理されている投資が減少。
- コミットメントラインの一部返済により借入金が減少。
- ペンタゴン社の将来の株式譲渡見込み価額の現在価値の認識により、その他金融負債が増加。

2 | 2021年3月期 通期見通し

- 新型コロナウイルスの景気へのマイナス影響は今期一杯は継続。
- 新型コロナウイルスの影響により新規提案活動の遅延や顧客の新規設備投資計画の見送りを見込む。
- 日本を含む東アジアの電子産業の一部における米中摩擦のマイナス影響を懸念。
- 顧客設備の稼働率は回復に向かう。
- 新型コロナウイルスの業績影響額：受注高▲140億円、売上高▲94億円、事業利益▲25億円

業績見通しの概要

(単位：億円)			2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/18発表)
受	注	高	2,595	2,640	+ 1.7%	2,610
売	上	高	2,648	2,700	+ 2.0%	2,680
事	業	利 益	267	280	+ 5.0%	235
そ	の	他 の 収 支	8	10	—	△ 10
営	業	利 益	275	290	+ 5.5%	225
税	引	前 利 益	267	280	+ 4.9%	226
親 会 社 の 所 有 者 に 帰 属 す る 当 期 利 益			183	190	+ 3.9%	160
基本的1株当たり当期利益（円）			162.86	169.15	+ 3.9%	142.48
為 替 レ ー ト	USD（円）		108.7	107.0		109.0
	EUR（円）		120.8	121.0		121.0
	CNY（円）		15.6	15.3		15.3

- 売上高は、上期の計画過達ならびに下期の新型コロナウイルス影響と為替影響の見直しにより、通期見通しを上方修正。
- 事業利益は、上期実績の進捗ならびに原価率改善と経費削減状況を踏まえ、通期見通しを上方修正。

セグメント別の見通し

(単位：億円)		2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/18発表)
全社	受注高	2,595	2,640	+ 45	2,610
	売上高	2,648	2,700	+ 52	2,680
	事業利益	267	280	+ 13	235
	事業利益率	10.1%	10.4%		8.8%
	営業利益	275	290	+ 15	225
水処理薬品 事業	受注高	1,138	1,039	△ 99	1,085
	売上高	1,136	1,039	△ 97	1,076
	事業利益	117	117	+ 0	89
	事業利益率	10.3%	11.3%		8.3%
	営業利益	101	102	+ 1	81
水処理装置 事業	受注高	1,458	1,601	+ 143	1,525
	売上高	1,512	1,661	+ 149	1,604
	事業利益	151	163	+ 12	146
	事業利益率	10.0%	9.8%		9.1%
	営業利益	174	188	+ 14	144

- 受注高の見通しのうち新型コロナウイルスの影響は、水処理薬品▲70億円、水処理装置▲70億円と試算。
- 売上高の見通しのうち新型コロナウイルスの影響は、水処理薬品▲70億円、水処理装置▲24億円と試算。
- 水処理薬品の事業利益は上期、下期ともに上方修正。
- ペンタゴン社のPPAが下期にずれ込んだことにより、水処理装置の下期の事業利益を小幅下方修正。

(単位：億円)	2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/18発表)
受注高	1,138	1,039	△ 99	1,085
国内	460	428	△ 33	420
海外	677	611	△ 66	666
売上高	1,136	1,039	△ 97	1,076
国内	460	428	△ 32	419
海外	676	611	△ 65	657
事業利益	117	117	+ 0	89
事業利益率	10.3%	11.3%		8.3%
営業利益	101	102	+ 1	81

- 受注高・売上高は、新型コロナウイルスの影響を見直し、国内を上方修正、海外を下方修正。
- 上期における原価率改善と経費削減の実績を踏まえ、下期の事業利益見通しを上方修正。

海外地域別売上高

(単位：億円)	2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/18発表)
アジア	264	221	△ 43	232
北米	195	187	△ 8	205
EMEA	191	183	△ 8	194
その他	26	20	△ 6	26
合計	676	611	△ 65	657

増減要因（億円）

オーガニック増減	△ 53
為替影響	△ 16
新規連結	+ 5

水処理装置事業（国内電子産業向け）

（単位：億円）	2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画 （5/18発表）
受注高	564	593	+ 29	561
装置	55	68	+ 13	65
メンテナンス	171	164	△ 8	142
超純水供給事業	266	278	+ 12	281
精密洗浄	72	83	+ 12	73
売上高	560	590	+ 30	560
装置	61	65	+ 4	63
メンテナンス	161	164	+ 3	143
超純水供給事業	266	278	+ 12	281
精密洗浄	72	83	+ 11	73

- 装置の需要動向に大きな変化は見られない。
- メンテナンスは大型案件延期の懸念があるも、前期並みの売上水準を見込み上方修正。
- 超純水供給事業は、一部顧客との契約解除により、下期売上高が若干減少。
- 精密洗浄は上期の堅調な実績を踏まえ上方修正。

水処理装置事業（国内一般産業向け）



（単位：億円）	2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画 （5/18発表）
受注高	561	541	△ 20	523
エネルギー・インフラ	455	445	△ 10	428
土壌浄化	78	74	△ 4	73
その他	28	22	△ 6	23
売上高	597	618	+ 21	610
エネルギー・インフラ	490	516	+ 26	497
土壌浄化	79	80	+ 1	90
その他	28	22	△ 6	23

- 装置の受注高・売上高は、電力向け、一般産業向けとともに期初計画線での推移。
- 一般産業向けメンテナンスの受注高・売上高は、前期を下回る見通しながらも、期初計画は上方修正。
- 官公需メンテナンスは、利益改善を見込む。
- 土壌浄化は、新型コロナウイルスの影響により、需要の鈍化と浄化延期の傾向が見られることから売上高見通しを下方修正。

水処理装置事業（海外）

（単位：億円）	2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画（5/18発表）
受注高	333	467	+ 134	440
装置	228	216	△ 12	226
メンテナンス	75	117	+ 42	85
超純水供給事業	30	27	△ 3	28
精密洗浄	－	106	+ 106	101
売上高	355	453	+ 98	435
装置	238	206	△ 32	226
メンテナンス	86	113	+ 27	80
超純水供給事業	30	27	△ 3	28
精密洗浄	－	106	+ 106	101

- 中国向けの受注高は進捗の遅れを反映し下方修正、売上高は小幅な見直し。
- 韓国向けの受注高・売上高は、期初計画線での推移を見込む。
- メンテナンスは各地域において堅調に推移。
- ペンタゴン社の精密洗浄事業は、期初計画を上方修正。

地域別売上高

（単位：億円）	2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画（5/18発表）
アジア	262	244	△ 18	249
北米他	93	209	+ 116	186
合計	355	453	+ 98	435

増減要因（億円）

オーガニック増減	△ 1
為替影響	△ 7
新規連結	+ 106

サービス事業売上高内訳

(単位：億円)	2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/18発表)
水処理薬品事業	1,136	1,039	△ 97	1,076
水処理装置事業	1,101	1,253	+ 152	1,183
超純水供給事業	296	306	+ 10	308
国内精密洗浄	72	83	+ 11	73
海外精密洗浄	—	106	+ 106	101
土壌浄化	79	80	+ 1	90
国内メンテナンス	545	543	△ 2	507
海外メンテナンス	86	113	+ 27	80
その他	23	22	△ 0	23
合計	2,237	2,292	+ 55	2,259

- 海外精密洗浄事業の見通しを上方修正。
- 国内外メンテナンスの見通しを上方修正。
- 超純水供給事業における一部顧客との契約解除の影響は軽微。

設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2020/3期 実績	2021/3期 見通し	前期比	期初計画 (5/18発表)
設備投資額（有形）	317	228	△ 90	228
超純水供給事業	131	79	△ 51	79
上記以外	187	148	△ 38	148
減価償却費（有形）	158	173	+ 15	173
水処理薬品事業	39	39	△ 0	40
水処理装置事業	119	134	+ 15	133
研究開発費	57	52	△ 5	52
水処理薬品事業	20	24	+ 4	24
水処理装置事業	37	29	△ 8	29

- 設備投資、減価償却費、研究開発費ともに期初計画を据え置き。
- 超純水供給事業以外の設備投資には、資産保有型サービス契約向けの投資や、国内外製造拠点への投資を含む。
- 超純水供給事業における一部顧客との契約解除による減価償却費への影響は軽微。

3 | 重点施策の進捗

収益性の高い事業モデルへのシフト

全製品・サービス

CSVビジネス

環境負荷低減効果が高い

サービス契約型ビジネス

モノ売りからコト売りへ

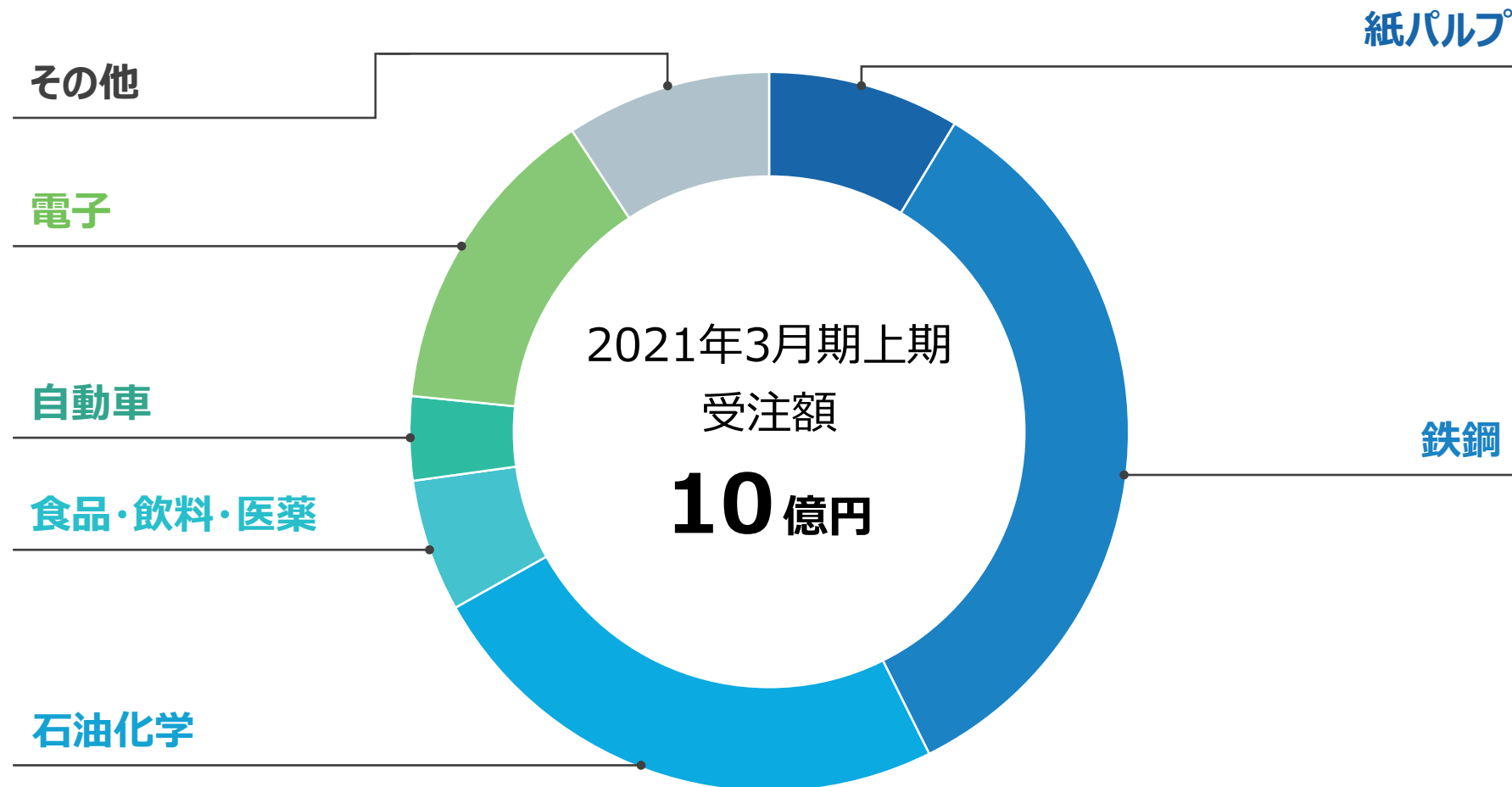
ソリューションモデル

製品・技術・サービス・契約を包含

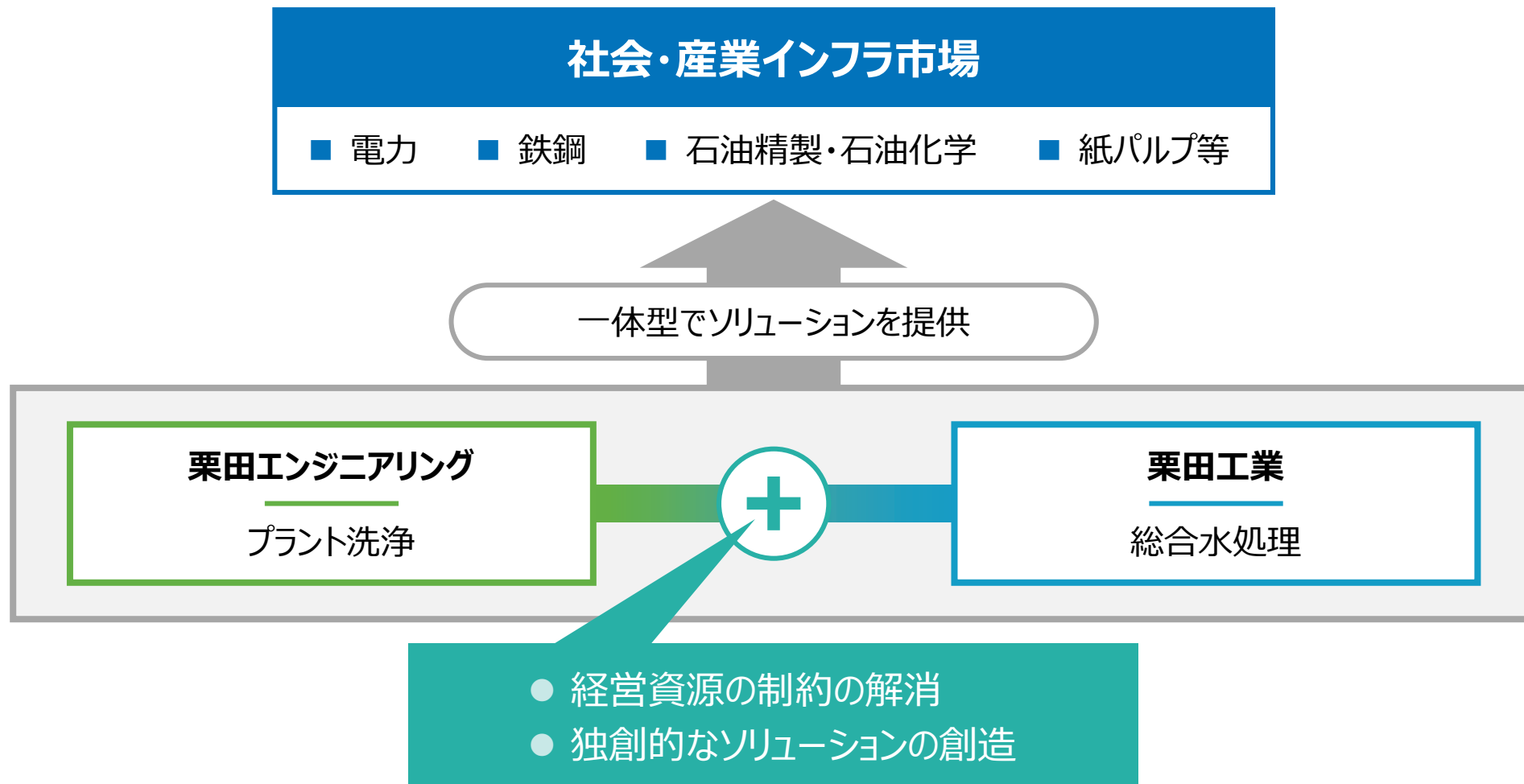
単体受注額
48億円
(2020年3月期)

単体受注額
19億円
(2020年3月期)

幅広い業種で採用の拡大継続



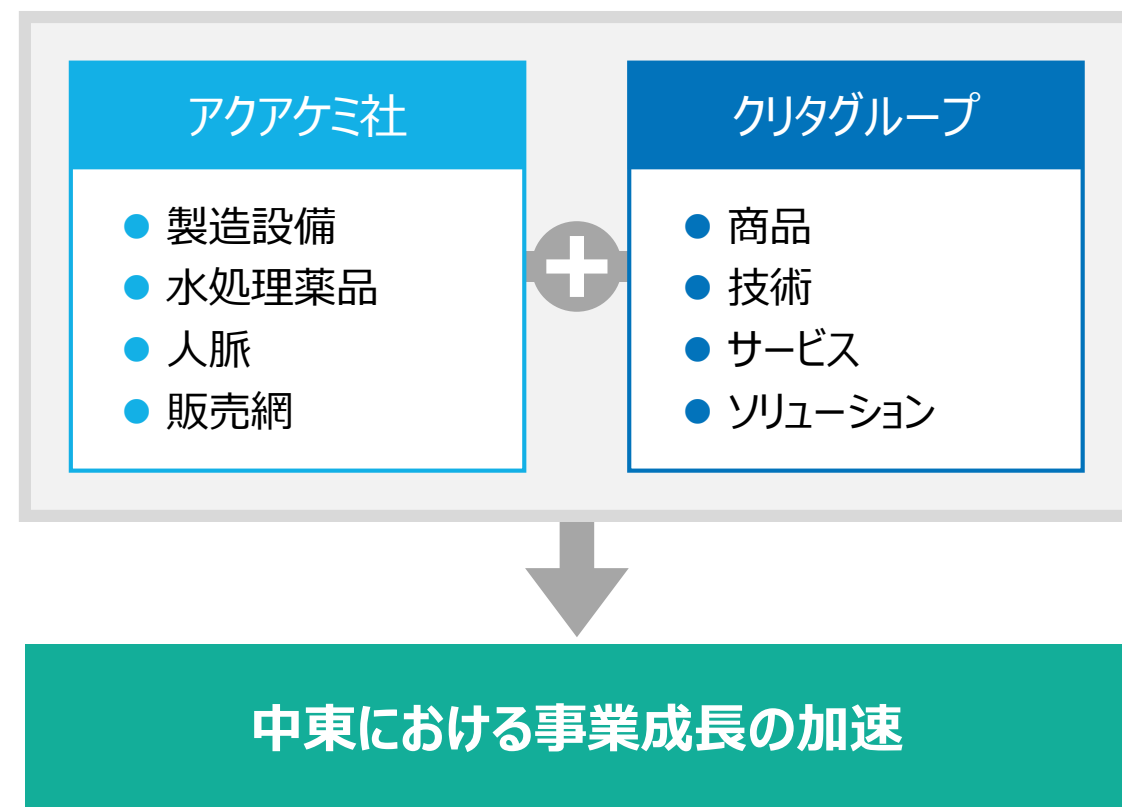
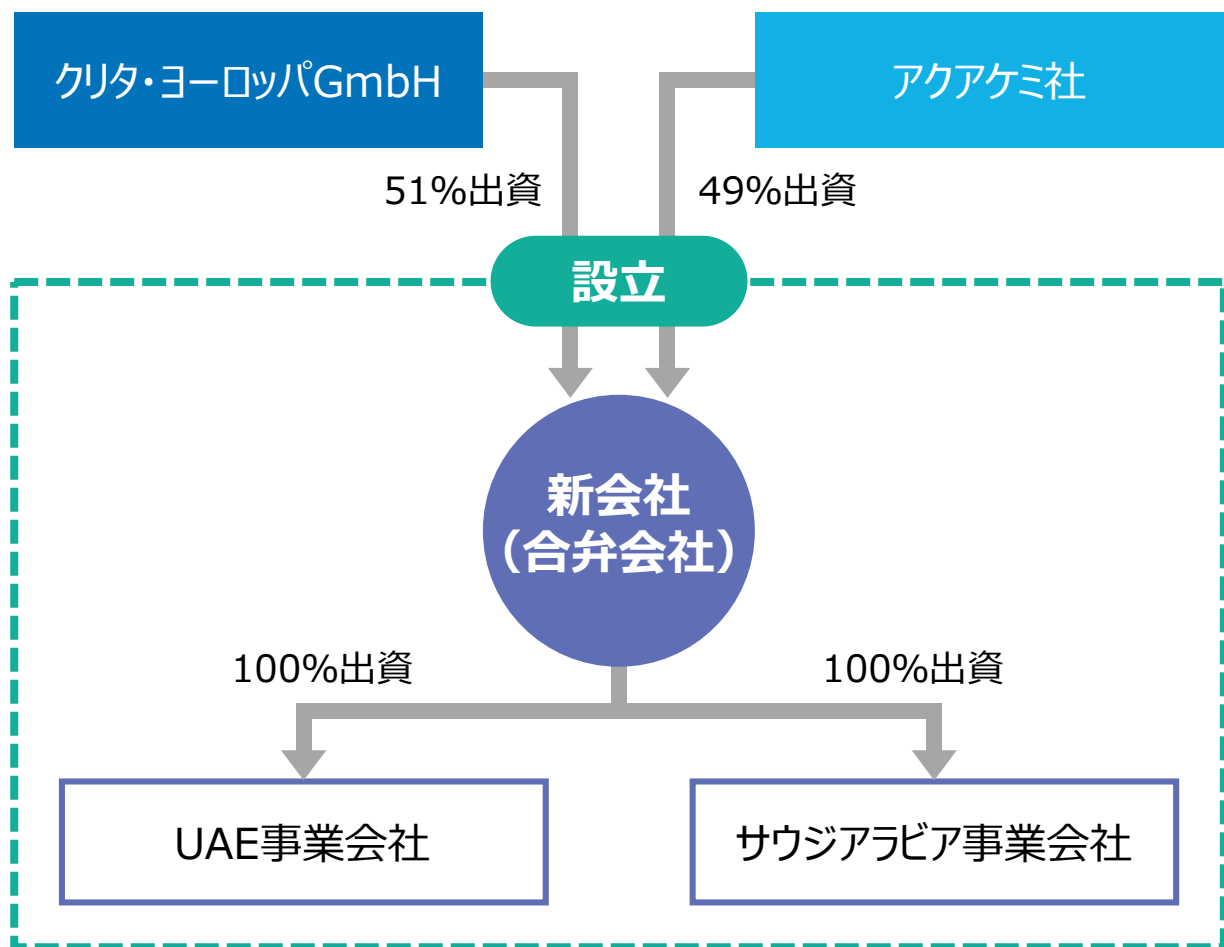
栗田エンジニアリングの合併による社会・産業インフラ市場向け事業の拡大



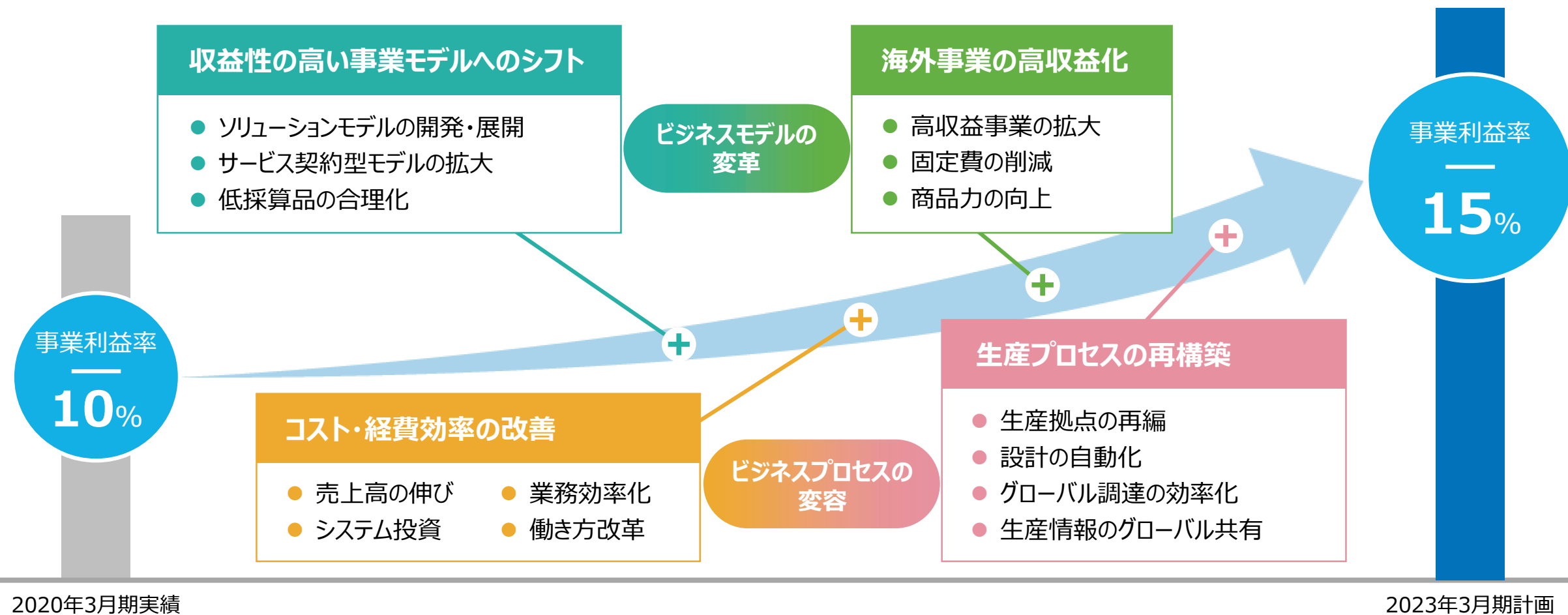
グローバルな事業基盤を活かした資源の最適配分



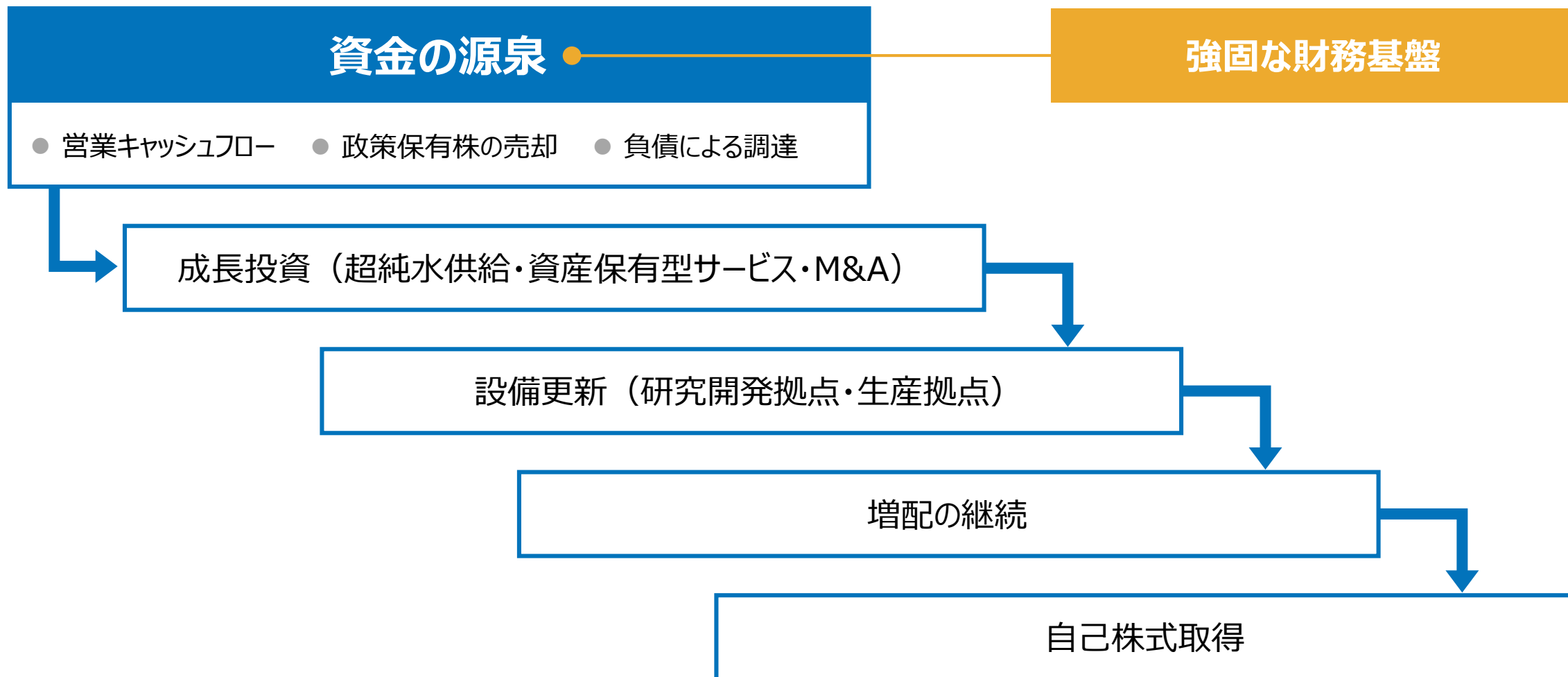
中東の水処理薬品事業会社と株式譲渡契約を締結



事業利益率10%（20/3期）→15%（23/3期）



資金使途の優先順位





将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。